

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



活 用 事 例



概 要	
学 校 名	印西市立牧の原小学校
活用方法	<p>国語科、算数科、外国語科・外国語活動の学習指導案の単元計画に、4つの学習過程を位置付け、その内容について検討し合った。「自分で取り組む」で、課題についての自分の考えを形成し、「広げ深める」では、ペアやグループ、全体で話し合い、互いの考えの違いやよさに気付かせてきた。そして、「まとめあげる」では、個に戻し、課題について学んだことをまとめさせた。</p>
成 果 等	<p>教師が意識して指導してきたので、児童もこの学習過程が定着してきた。どの教科でも、毎時間、友達との対話を重要視して取り入れてきたので、自然な雰囲気や相談したりアドバイスをし合ったりし、高め合うことができるようになってきている。毎時間、最後に「振り返り」の時間を取り、その時間の学びを自分の言葉でまとめることにより、主体的に学ぶ姿勢に近づいてきた。</p>



国語科の授業の「広げ深める」では、作文で自分が一番伝えたい場面について、イメージマップを基に説明しました。説明を聞いた友達は、「どんな気持ちでしたの?」「どうしてそうなったの?」等の質問をし、その質問に答えることで、場面の様子や自分の気持ちを表すための表現の工夫について理解を深めました。



算数科の授業の「まとめあげる」では、乗法の計算について学んだことを、自分の言葉でまとめました。児童は、黒板やノートを見返したり、自分の思考の過程を振り返ったりしながら、まとめの表現を考えました。まとめた後は、練習問題に取り組み、学んだことを確実に身に付けました。